

高等学校 地理歴史科 シラバス

3年間のねらい、学習目標

全員が1年生で歴史総合、2年生で地理総合、文系に進む人はそれらに加えて2年生で歴史特論、3年生で日本史探究と世界史特論を学ぶ。歴史は時間の流れに着目し時間を追って、地理は空間の広がりに着目し地点や地域、地形を追って、どのような原因や経緯・関係性の中に我々や我々と関係する他者が現状にあるのかを捉え、説明しようという学びである。時間や空間のなかで、自分や他者、それぞれを取り巻く政治・経済・社会・文化・自然とのかかわりなど特徴をつかみ、適切に描写できるようになることをめざす。

そのような説明や描写の仕方に、数学や理科のように客観的に正しい正解や、正解をみちびく方法があるという考え方と、適切な見方や考え方、それをみちびくための適切なアプローチが時と場合によって、あるいは人との関係性の中で変わらざるを得ないもしくは、変わるべきだとの考え方がせめぎあっている。地理や歴史の楽しいけれども難しい点は、その両方の考えがあるということ踏まえた上で、時間や空間に照らして、適切な方法を選択して人や社会について描けるようになることである。

歴史や地理について何かを述べる時、説明の根拠となる史料や資料を適切に扱えるかどうかは、特に重要なスキルになる。書かれていること、言われていることが読み取れるかどうかだけでなく、書かれた目的、使われ方、他の資料との関係、資料作成者の立場や意図、作成された社会状況などに照らして、批判的に読み、活用できるようになることは、あなたの説明の的確性を担保する上で、とても大切である。国語的な文章の読解とは手法や目的が違うため、慣れることが必要である。

また、地理歴史科の学びは、公民科で学ぶ政治や経済などのように、刻々と変わる現代社会の諸課題を直接に把握し、解決をめざそうという学びではない。しかし、それらの学びを有意義にするためには、時間や空間に照らして、人や社会について因果・経緯・関係性・比較考察をして適切に説明できるようになることは、大切なことである。どのような因果や関係性・比較考察の中で問題を捉えるかによって、現代の課題が何であるか、望ましい解決方法が何かに関する考え方が変わるからである。

皆さんは家族・友だち・地域・国・世界など、さまざまな単位や広がりの中で世の中を支える大切な存在である。地理歴史科の学びの中で、世の中を適切に語り、共に課題を解決していくために、世の中について、自分と関わりを持つ人が納得できる説明をできるようになることが重要である。

先生や科目によっては、プレゼンテーションやグループワーク・レポートなどが重視されることもある。そのような場合、先生の話をしっかり聞くことも大切だが、友だちの話もしっかり聞き、理解や感覚を確かめることも大切である。自分の理解や考えを、筋道をはっきりさせて人に伝えることも大切である。人がどのような感覚を持って世の中をながめているか、どのような問題意識や感覚で生きているかを知ること、それが自分とどう違うか、その場合、その人の説明として認めるのか、それとも正しい捉え方があるかと説得するのを見極めることも地理歴史を勉強して養われる重要な資質である。

第1学年	教科書	『明解歴史総合』（帝国書院）
歴史総合 (3単位)	副教材	『明解歴史総合図説シンフォニア 最新版』（帝国書院）など

学習到達目標

近現代におこった様々な出来事や、できあがった政治や経済の仕組み、社会や文化の特徴などについて、時系列や地域間の関係を追った推移や変化、現代の諸課題とのつながりなどに注目し、証拠となることから適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。授業を中心とする学びのなかで、歴史に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、世の中でおこる出来事や社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できる資質や能力を育む。

- (1) ①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成につながるよう知識を獲得し、理解する。
- ②様々な史資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。

- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について学んだことをふまえ、どうすればより良い社会を実現できるかを視野に、課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。
②近現代史に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の歴史を大切に、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①近現代の歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な現代的課題の形成に関連する近現代の歴史を理解できる。 ②様々な史資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①近現代の歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。 ②歴史に見られる課題を把握して解決を視野に入れて構想し、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①近現代の歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究・解決しようすることができる。 ②歴史に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、自国や自文化を大切にするとともに、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めることができる。

学習方法

(1) 授業と予習復習を大切にしよう

- ① 授業に積極的に参加しよう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとる習慣をつけよう。
- ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしよう。
- ③ 予習復習をこまめにしよう。苦手な人ほど予習も大切で、授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわき、授業を受けやすくなる。
- ④ 歴史が苦手な人ほど、歴史は単純な暗記科目であるという誤解をしている。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要性について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できる。知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切である。

(2) 課題にしっかり取り組もう

問題集や調査・ワークシート・レポート・スピーチ・プレゼンテーション・ノート提出など様々な形の課題が課せられる。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、地理歴史科・公民科にとって大切な訓練であり、大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなる。面倒くさがらずに一生懸命取り組もう。

(3) 授業と世の中の接点を意識してメディアの報道との関係を考えよう

世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係している。日常的にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、得意になるための早道である。

(4) ふとした疑問を大切にしよう

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか、街で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまずいこと、もっと適切な説明があることはままある。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれない。「なぜ」にこだわって調べるのは、様々な学問が大切にすることも基本的なアプローチである。

(5) 歴史に関する本を読めるようになるろう

いわゆる新書といわれる分類の本を一冊通して読めるようになる。特に推薦入試で同志社大学をと考えている人には必須の技能である。ネットでの情報収集には一長一短がある。特に確実性に問題があるということは押さえておこう。

(6) ご家族や親戚・地域の方が歴史について話していることがあればよく聞こう

博物館や資料館を訪ねてみるのも良い経験である。学校で習う歴史の説明と同じかどうかを良く聞き比べてみよう。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週3時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 歴史の扉 ①歴史と私たち ②歴史の特質と資料	ア. 身の回りの事象と世界の歴史がつながっていることを理解できる。 イ. 身の回りの事象と世界の歴史とのつながりについて考察し、自分の考えを表現できる。 ウ. 絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなどの正しい読み解き方について理解できる。	【評価の観点】 ・近現代史についての知識・理解 ・歴史を理解・解釈するための技能 ・近現代史についての思考・判断・表現 ・歴史総合の学習に主体的に取り組み、歴史総合で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】 〔各学期共通〕
	2. 近代化と私たち ①近代化への問い ②江戸時代の日本と結びつく世界 ・アジアの中の江戸幕府 ・成熟する江戸社会 ・清の繁栄と結びつくアジア ・アジア・アメリカに向かうヨーロッパ ③欧米諸国における近代化 ・イギリスの革命とアメリカの独立 ・フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け ・フランス革命の影響と国民意識の芽生え ・産業革命で変わる社会 ・イギリスの繁栄と国際分業	ア. 近代化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。 イ. 資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、近代化を読み解く問いを表現している。 ウ. 中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。 ア. 18世紀のアジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易と、日本への影響について理解している。 イ. 「大航海時代」から「世界の一体化」へ至る交易の意義と地域の変容について考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 18世紀の交易と現代の貿易との違いについて考察し、その変化の要因を追究しようとしている。 ア. 市民社会と国民国家の形成、資本主義社会と国際分業体制確立の経緯を理解している。 イ. 市民革命および産業革命の経緯などから、諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し、自分の言葉で表現している。 ウ. 市民革命や産業革命が現代社会に与えた課題について、解決策を追究しようとしている。	1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方・考え方、歴史についての判断や表現、歴史に関する知識や理解・技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。

	<p>④近代化の進展と国民国家</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1848年～近代ヨーロッパの転換点 ・イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 ・アメリカの拡大と第2次産業革命 ・帝国主義と世界の一体化 <p>⑤アジア諸国の動揺と日本の開国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「西洋の衝撃」と西アジアの変化 ・南・東南アジアの植民地化 ・ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 ・黒船の来航と日本の対応 ・新体制の模索と江戸幕府の滅亡 <p>⑥近代化が進む日本と東アジア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新政府の誕生 ・近代国家を目指す日本 ・日本と清の近代化と日清戦争 ・列強の中国進出と日露戦争 ・日露戦争が与えた影響 <p>⑦近代化と現代的諸課題</p>	<p>ア. 国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況を理解している。</p> <p>イ. 国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. 国民国家や帝国主義政策が現代社会に与えた影響について、追究しようとしている。</p> <p>ア. 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について理解している。</p> <p>イ. アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、「西洋の衝撃」の歴史的意義について自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. 欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が現代社会にどのような課題を生み出したかについて考察し、追究しようとしている。</p> <p>ア. 明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について理解している。</p> <p>イ. 明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. 明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会にどのような課題を与えたかについて考察し、解決策を追究しようとしている。</p> <p>ウ. 近代化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経緯を踏まえたうえで自分なりの解決策を追究しようとしている。</p>	<p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
<p>2 学期</p>	<p>2. 国際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>①国際秩序の変化や大衆化への問い</p> <p>②第一次世界大戦と日本の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 ・総力戦となった第一次 	<p>ア. 国際秩序の変化や大衆化に関わる史料を読み解く技能を身に付けている。</p> <p>イ. 資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、国際秩序の変化や大衆化を読み解く問いを表現している。</p> <p>ウ. 中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>ア. 国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解している。</p> <p>イ. 第一次世界大戦の総力戦体制下におい</p>	

<p>世界大戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシア革命と大戦の終結 <p>③国際協調と大衆社会の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヴェルサイユ体制の成立 ・東アジアの民族自決の行方 ・中東・インドの民族自決の影響 ・ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 ・大衆社会の出現とアメリカの繁栄 ・日本における大衆社会の形成 <p>④日本の行方と第二次世界大戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌が与えた影響 ・ファシズムの台頭と拡大 ・政党政治の断絶と満州事変 ・日中戦争の始まり ・第二次世界大戦の展開 ・戦局の悪化と被害の拡大 ・第二次世界大戦の終結とその惨禍 <p>⑤再出発する世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦後の新たな国際秩序 ・冷戦の始まり ・日本撤退後の東アジア ・日本の改革と独立の回復 <p>⑥国際秩序の変化・大衆化と諸課題</p>	<p>て、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかを考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. 勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現在の社会につながるどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。</p> <p>ア. ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化を理解している。</p> <p>イ. 新しい国際秩序と大衆社会の特徴について考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会においてどのような課題を生み出したのかを考察し、その解決策について追究しようとしている。</p> <p>ア. 世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解している。</p> <p>イ. ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、ドイツや日本で大衆がなぜ戦争に協力していったのかを考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. 大衆の戦争への加担という問題を現代社会における課題としてとらえ、その解決策を追究しようとしている。</p> <p>ア. 冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解している。</p> <p>イ. 国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際関係を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかを考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. 大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制における課題が、現代社会にどのような影響を与えているかについて考察し、解決策を追究しようとしている。</p> <p>ア. 国際秩序の変化や大衆化に関連する現代の課題について考察し、歴史的な経</p>	
--	--	--

		緯を踏まえ、たうえで自分なりの解決策を追究しようとしている。
3 学 期	<p>3. グローバル化と私たち</p> <p>① グローバル化への問い</p> <p>② 冷戦で揺れる世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ・ソ連の緊張と緩和 ・冷戦下における日本の復興 ・第三勢力の形成と脱植民地化 ・中東戦争とパレスチナ問題 <p>③ 多極化する世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺らぐアメリカと先進各国の変化 ・「経済大国」日本の模索 ・経済発展に取り組むアジア・南米諸国 ・イスラーム復興と冷戦への影響 <p>④ グローバル化のなかの世界と日本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の終結と変わる世界構造 ・冷戦の終結が与えた世界への影響 ・超大国アメリカと中東情勢 ・国際環境の変化と日本 ・グローバル化による国際社会の変容 <p>⑤ 現代的な諸課題の形成と展望</p>	<p>ア. グローバル化に関わる史資料を読み解く技能を身に付けている。</p> <p>イ. 資料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を総合し、グローバル化を読み解く問いを表現している。</p> <p>ウ. 中学校までの学習を踏まえて、見通しをもって学習に取り組もうとし、問いを繰り返し洗練させていくなど、粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>ア. 55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解している。</p> <p>イ. 冷戦下の日本と世界の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. 冷戦期における各国の動向、現在の社会においてどのような課題を生み出したのかを考察し、解決策について追究しようとしている。</p> <p>ア. 1960年代から80年代を中心に、冷戦下における各国の選択と経済成長について理解している。</p> <p>イ. 各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. 冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会にどのような課題を生み出したのかを考察し、解決策について追究しようとしている。</p> <p>ア. 冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解している。</p> <p>イ. グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現している。</p> <p>ウ. 冷戦の終結とグローバル化の進展がどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。</p> <p>ウ. 自ら設定した問いに対し、学習して身に付けた知識や教科書、その他の史資料を活用して、課題の解決のために、主体的・計画的に探究学習に取り組もうとしている。</p>

第2学年	教科書	『高等学校 新地理総合』（帝国書院）
地理総合 （2単位）	副教材	『新詳地理資料 COMPLETE』（帝国書院） 『高等学校 新地理総合ノート』

学習到達目標

社会にみられる様々なことがらの中から、地理に関わることがらの意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布・場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、地理的な概念などを活用して考察したり、地理的な課題を解決したりする活動を通して、世の中でおこる出来事や社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できる資質・能力を育む。

- (1) ①地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性、防災、地域や地球的課題への取組などに関する知識・理解を獲得する。
②地図や地理情報システム(GIS)などを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) ①地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。
②地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究し解決しようとする態度を養う。
②地理に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の文化を大切にし、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などに関する知識・理解を獲得できる。 ②地図や地理情報システム(GIS)などを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布・場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できる。 ②地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決しようとする態度を身につけられている。 ②地理に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の文化を大切にし、他国や他国の文化を尊重することができる。

学習方法

- (1) 授業と予習復習を大切にしよう
 - ① 授業に積極的に参加しよう。教員の話をよく聞き、メモをとる習慣をつけよう。
 - ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしよう。
 - ③ 予習復習をこまめにしよう。苦手な人ほど予習も大切である。
 - ④ 地理が苦手な人ほど、地理は単純な暗記科目であるという誤解をしている。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できる。知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切である。
- (2) 課題にしっかり取り組もう

問題集やしらべもの・調査・ワークシート・レポート・スピーチ・プレゼンテーション・ノート提出など様々な形の課題が課せられる。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、地理歴史科。公民科にとって大切な訓練である。

(3) 視覚的な気づきを大切にしよう

日常通る場所のちょっとした変化や、旅行したときに見たこと・感じたことを大切にすることは、空間把握の第一歩である。

(4) ふとした疑問を大切にしよう

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか、街で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまずいこと、もっと適切な説明があることはままある。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれない。「なぜ」にこだわって調べるのは、様々な学問が大切にすることも基本的なアプローチである。

(5) 地図帳や統計、Google Earth や Google Map などの地理情報システム (GIS) を活用しよう

地図や統計情報・GIS に親しみ使っていると、自然に知識が増えて、地理が得意になる。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 地図でとらえる現代世界 ①地図と地理情報システム ・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類	ア. 日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 イ. 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ウ. 地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途・内容・適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。	【評価の観点】〔各学期共通〕 ・地理についての知識・理解 ・地理を理解するために地図・統計・GIS等を用いる技能 ・地理についての思考・判断・表現 ・地理総合の学習に主体的に取り組み、地理総合で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、地理的な見方、考え方、地理についての判断や表現、地理に関する知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかを見るための問題も出題する。
	②結び付きを深める現代世界 ・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界	ア. 現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きについて理解している。 イ. 現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察し、表現している。 ウ. 現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究・解決しようとしている。	2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学

	<p>2. 国際理解と国際協力</p> <p>①生活文化の多様性と国際理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活文化の多様性 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活 <p>(追究事例 自然) オセアニア 東南アジア など</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の言語・宗教と人々の生活 <p>(追究事例 宗教) 中央アジア 西アジア 北アフリカ インド など</p>	<p>ア. 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。</p> <p>ア. 世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。</p> <p>イ. 世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究・解決しようとしている。</p>	<p>習過程で、評価の観点の各項目について評価する。</p> <p>(2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的背景と人々の生活 <p>(追究事例 歴史) ラテンアメリカ サハラ以南アフリカ ロシア など</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の産業と人々の生活 <p>(追究事例 産業) アメリカ合衆国 東アジア ヨーロッパ など</p> <p>②地球的課題と国際協力</p> <ul style="list-style-type: none"> 複雑に絡み合う地球的課題 地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口問題 食料問題 都市・居住問題 	<p>ア. 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。</p> <p>ア. 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。</p>	

		<p>イ. 世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	
3 学期	<p>3. 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>①自然環境と防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災 ・気象災害と防災 ・自然災害への備え <p>②生活圏の調査と地域の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活圏の調査と地域の展望 	<p>ア. 我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。</p> <p>ア. さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的スキルを身に付けている。</p> <p>イ. 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>ウ. 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>ア. 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。</p> <p>イ. 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>ウ. 生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p>	

第2学年 ＜文系＞ 歴史特論 (1単位)	教科書	『明解歴史総合』(帝国書院)
	副教材	『明解歴史総合図説シンフォニア 最新版』(帝国書院) など

学習到達目標

様々な過去の出来事や、政治や経済の仕組み、社会や文化の特徴などについて、時系列や地域間の関係を追った推移や変化、現代の諸課題とのつながりなどに注目し、証拠となることから適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。歴史に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、現代の社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成につながるよう知識を獲得し、理解する。
②様々な史資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- (2) 歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①歴史の変化に関わる諸事象について学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。
②歴史に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の歴史を大切にし、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア.知識・技能	イ.思考・判断・表現	ウ.主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な現代的課題の形成と関連させ歴史を理解できる。 ②様々な史・資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。 ②歴史に見られる課題を把握して解決を視野に入れて考察・構想し、自身の考えを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究・解決しようすることができる。 ②歴史に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、自国や自文化を大切に、他国や他国の文化を尊重する姿勢を備えている。

学習方法

※歴史総合と同じ

年間シラバス (1年間の学習予定表)

＜週1時間＞

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
----	---------	--------------	-----------

1 学 期	1. 学習指導要領に定める「日本史探究」の内容 A 原始・古代の日本と東アジア B 中世の日本と世界 C 近世の日本と世界 D 近現代の地域・日本と世界 E 現代の日本の課題の探究 (歴史資料と各時代の展望、各時代に関する歴史の解釈・説明・論述を含む)	ア. 授業で扱う時代や地域の歴史について、基本的な知識を身につけ、代表的な理解のあり方を再現することができる。 ア. 絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読み取るなどの正しい読み解き方について理解できる。 ア. 史資料を適切に読み解く技能を身に付けている。	【評価の観点】 ・歴史についての知識・理解 ・歴史を理解・解釈するための技能 ・歴史についての思考・判断・表現 ・歴史特論の学習に主体的に取り組み、歴史特論で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方・考え方、歴史についての判断や表現、歴史に関する知識・理解・技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
	2. 学習指導要領に定める「世界史探究」の内容 A 世界史へのまなざし B 諸地域の歴史的特質の形成 C 諸地域の交流・再編 D 諸地域の結合・変容 E 地球世界の課題	イ. 授業で扱う時代や地域の歴史について探求課題を設定し、その時代や地域の社会の特徴について、前後の時代や関連する地域との関係性や現代の社会との対比を考察し、その結果を自分の言葉で説明・表現できる。 ウ. 授業で扱う時代や地域の歴史について学んだことがらを、現代の日本や世界の課題、現代人を取り巻く課題の解決と関連づけて活用することができる。	
2 学 期			
3 学 期	※上記1. 2. の内容・項目から適宜選択する。その際、第1学年で履修した「歴史総合」の学習内容・事項とその定着度を考慮する。		

第3学年 ＜文系＞ 日本史特論 (2単位)	教科書	(未定)
	副教材	(未定)

学習到達目標

様々な過去の出来事や、政治や経済の仕組み、社会や文化の特徴などについて、時系列や地域間の関係を追った推移や変化、現代の諸課題とのつながりなどに注目し、証拠となることがらを適切に活用して、

理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。歴史に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、現代の社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成につながるよう知識を獲得し、理解する。
 ②様々な史資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- (2) 歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) ①歴史の変化に関わる諸事象について学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。
 ②歴史に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の歴史を大切にし、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な現代的課題の形成と関連させ歴史を理解できる。 ②様々な史資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。 ②歴史に見られる課題を把握して解決を視野に入れて考察・構想し、自身の考えを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究・解決しようすることができる。 ②歴史に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、自国や自文化を大切にし、他国や他国の文化を尊重する姿勢を備えている。

学習方法

※歴史総合と同じ

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1学期	1. 学習指導要領に定める「日本史探究」の内容 A 原始・古代の日本と東アジア (1) 黎明期の日本列島と歴史的環境 (2) 歴史資料と原始・古代の展望 (3) 古代の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈・説明・論述）	ア. 授業で扱う時代や地域の歴史について、基本的な知識を身につけ、代表的な理解のあり方を再現することができる。 ア. 絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなどの正しい読み解き方について理解できる。 ア. 史資料を適切に読み解く技能を身に付けている。 イ. 授業で扱う時代や地域の歴史について	【評価の観点】 ・日本史についての知識・理解 ・日本史を理解・解釈するための技能 ・日本史についての思考・判断・表現 ・日本史特論の学習に主体的に取り組み、日本史特論で学んだことがらを主体的に活用しよう

2 学 期	B 中世の日本と世界 (1) 中世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と中世の展望 (3) 中世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈・説明・論述）	て探求課題を設定し、その時代や地域の社会の特徴について、前後の時代や関連する地域との関係性や現代の社会との対比を考察し、その結果を自分の言葉で説明・表現できる。 ウ. 授業で扱う時代や地域の歴史について学んだことがらを、現代の日本や世界の課題、現代人を取り巻く課題の解決と関連づけて活用することができる。	とする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方・考え方、歴史についての判断や表現、歴史に関する知識や理解・技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
	C 近世の日本と世界 (1) 近世への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近世の展望 (3) 近世の国家・社会の展開と画期（歴史の解釈・説明・論述）		
3 学 期	D 近現代の地域・日本と世界 (1) 近代への転換と歴史的環境 (2) 歴史資料と近代の展望 (3) 近現代の地域・日本と世界の画期と構造 (4) 現代の日本の課題の探究 ※上記1.の内容・項目から適宜選択する。その際、第1学年で履修した「歴史総合」の学習内容・事項とその定着度を考慮し、第2学年で履修した「歴史特論」の学習内容と重複しないよう配慮する。		

第3学年 ＜文系＞ 世界史特論 (2単位)	教科書	(未定)
	副教材	(未定)

学習到達目標

世界における様々な過去の出来事や、政治や経済の仕組み、社会や文化の特徴などについて、時系列や地域間の関係をおった推移や変化、現代の諸課題とのつながりなどに注目し、証拠となることから適切に活用して、理解・説明・分析・総合・他者への説得ができるようになる。歴史に関する課題を追究したり解決したりする活動を通して、現代の社会的事象について、様々な角度から検討し、深く考察して、自分が幸せになるために、人の幸せに貢献できるよう資質・能力を育む。

- (1) ①歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成につながるよう知識を獲得し、理解する。
- ②様々な史資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- (2) 歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在と

のつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

- (3) ①歴史の変化に関わる諸事象について学んだことをふまえ、どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養う。
 ②歴史に関連する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、身近な社会や自国の歴史を大切にし、他国や他国の文化を尊重することについての自覚を深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価規準	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、様々な現代的課題の形成と関連させ歴史を理解できる。 ②様々な史資料から歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について意味や意義・特色などを、時期や年代・推移・比較・相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。 ②歴史に見られる課題を把握して解決を視野に入れて考察・構想し、自身の考えを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	①歴史の変化に関わる様々な出来事や社会の様子について、よりよい社会の実現を視野に、課題を学習者自身の関心にひきつけて追究・解決しようすることができる。 ②歴史に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本国民として、世界の一員として、自国や自文化を大切にし、他国や他国の文化を尊重する姿勢を備えている。

学習方法

※歴史総合と同じ

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 学習指導要領に定める「世界史探究」の内容 A 世界史へのまなざし (1) 地球環境から見る人類の歴史 (2) 日常生活から見る世界の歴史 B 諸地域の歴史的特質の形成 (1) 諸地域の歴史的特質への問い (2) 古代文明の歴史的特質 (3) 諸地域の歴史的特質	ア. 授業で扱う時代や地域の歴史について、基本的な知識を身につけ、代表的な理解のあり方を再現することができる。 ア. 絵画・史料・数値など歴史における史資料の重要性と、事実と解釈を分けて読みとるなどの正しい読み解き方について理解できる。 ア. 史資料を適切に読み解く技能を身に付けている。 イ. 授業で扱う時代や地域の歴史について探求課題を設定し、その時代や地域の社会の特徴について、前後の時代や関連する地域との関係性や現代の社会との対比を考察し、その結果を自分の言葉で説明・表現できる。	【評価の観点】 ・世界史についての知識・理解 ・世界史を理解・解釈するための技能 ・世界史についての思考・判断・表現 ・世界史特論の学習に主体的に取り組み、世界史特論で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】 〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、歴史的な見方・考え方、歴史についての判断や表現、
2 学期	C 諸地域の交流・再編 (1) 諸地域の交流・再編への問い	ウ. 授業で扱う時代や地域の歴史について学んだことがらを、現代の日本や世界の課題、現代人を取り巻く課題の解	

	<p>(2) 結び付くユーラシアと諸地域</p> <p>(3) アジア諸地域とヨーロッパの再編</p> <p>D 諸地域の結合・変容</p> <p>(1) 諸地域の結合・変容への問い</p> <p>(2) 世界市場の形成と諸地域の結合</p> <p>(3) 帝国主義とナショナリズムの高揚</p> <p>(4) 第二次世界大戦と諸地域の変容</p>	<p>決と関連づけて活用することができる。</p>	<p>歴史に関する知識や理解・技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点</p> <p>(1) 個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。</p> <p>(2) 小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
<p>3 学 期</p>	<p>E 地球世界の課題</p> <p>(1) 国際機構の形成と平和への模索</p> <p>(2) 経済のグローバル化と格差の是正</p> <p>(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会</p> <p>(4) 地球世界の課題の探究</p> <p>※上記1.の内容・項目から適宜選択する。その際、第1学年で履修した「歴史総合」の学習内容・事項とその定着度を考慮し、第2学年で履修した「歴史特論」の学習内容と重複しないよう配慮する。</p>		

高等学校 公民科 シラバス

2年間のねらい、学習目標

英国には「シチズンシップ」という授業科目がある。それは一人前の大人として社会で権利（選挙権などを含む）を行使し、社会を支えて活躍するための準備教育と位置づけられている。公共をはじめとする公民科の各科目の目的は、まさにそこにある。

全員が2年生で公共、3年生で政治経済、文系に進む人はそれらに加えて3年生で国際関係論を学ぶ。公民は現代社会に関わる様々な問題について、政治、経済、文化、倫理、国際関係などの視点から、自分や他者、両者の関係をつかみ、適切に説明できるようになることをめざす。

現代社会をとらえる方法については、政治学や経済学、社会学、倫理学、心理学、国際法、国際政治学、国際経済学などの学問的なアプローチの基礎を学ぶが、それらの学問的なアプローチだけでは十分に現代社会の諸問題をとらえきれず、解決を目指す上で不十分なこともしばしばである。それだけに、学問的なアプローチを踏まえつつも、その限界を認識しつつ、適切な方法を選択して人や社会について描けるようになることが大切である。

社会について何かを述べる時、説明の根拠となる資料を適切に扱えるかどうかは、特に重要なスキルとなる。国語的なテキストの読解や、数学的な統計読解と、公民的なテキスト読解はスキルが異なる。書かれていること、言われていることが読み取れるかどうかだけでなく、書かれた目的、使われ方、他の資料との関係、資料作成者の立場や意図、作成された社会状況などに照らして、批判的に読み、活用できるようになることは、あなたの説明的的確性を担保する上で、とても大切だといえよう。いわばテキスト周辺情報、統計周辺情報を同時に分析的に読む力が求められるのである。

また、みなさんはまもなく18歳を迎える。最近、成人年齢が引き下げられ、早ければみなさんは高校3年生で、選挙や裁判員制度などの担い手となる。社会で自分の意志を表明し、自身の判断と行動によってさまざまな社会的活動に関わっていくことになるだろう。不安やわずらわしさを感じる人もいるかもしれないが、どのような場面で社会と積極的に関わろうとし、関わろうとしないかが、そもそも重要な分かれ目となる。この成人年齢が18歳になったという世の中の変化に合わせて、高校生として学ぶべきことがたくさんあるなかで、本校ではあえて文系・理系にかかわらず、3年生で政治経済を必修にしている。公共と必要な知識や理解が重なる部分も多いにもかかわらず、あえて全員が勉強することにしてるのは、社会的な課題について、より深く実践的な思考や判断をする機会をなるべく多く確保したいと考えたからである。

大人になったら選挙で誰に投票するか迷わず、政治的に間違いのない行動がとれるというものではない。日々行っている日常の買い物がSDGsに照らして正しいと確信して行動しているわけでもない。しかし、意識して、あるいは無意識での判断や行動の積み重ねが、少しずつ私たちを取り巻く様々な社会を維持し、変えていく原動力となるのである。だから、刻々と変わる現代社会の諸課題を的確に把握し、解決をめざそうとする学びは重要である。人や社会について因果、経緯、関係性等を比較考察して適切に説明できるようになることは大切で、どのような因果や関係性、比較考察の中で問題を捉えるか、現代の課題が何であるか、望ましい解決方法が何かに関する考察を、トライ・アンド・エラーを繰り返しつつできるようになってほしい。

先生や科目によっては、プレゼンテーションやグループワーク、レポートなどが重視されることもあるだろう。そのような場合、先生の話をしっかり聞くことも大切だが、友だちの話もしっかり聞き、理解や感覚を確かめることも大切である。自分の理解や考えを、筋道をはっきりさせて、人に伝えることも大切である。人がどのような感覚を持って世の中をながめているか、どのような問題意識や感覚で生きているかを知ること、それが自分とどう違うか、その場合、その人の説明として認めるのか、それとも正しい捉え方があると説得するのかを見極めることも公民を勉強して養われる重要な資質だといえよう。

第2学年 公共 (2単位)	教科書	『高等学校 公共』(帝国書院)
	副教材	『クローズアップ公共』(第一学習社) 『高等学校 公共ノート』(帝国書院)

学習到達目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動

を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身につける。

- (1) ①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。
②諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身につける。
- (3) ①どうすればより良い社会の実現ができるかを視野に、現代の諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につける。
②現代社会の諸問題に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、日本と各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①政治・社会・文化など現代社会に関わる様々な問題や課題について、代表的な概念や理論を踏まえて理解できる。 ②様々な資料を活用し、どうすることが自分にとって、社会にとって望ましいかをふまえて活動するために、必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけている。	①現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身につけている。	①より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身につけている。 ②諸問題に関する多面的・多角的な考察や深い理解を通し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担い、主権の相互尊重や、国際協力の大切さについての自覚を深められる。

学習方法

- (1) 授業と予習復習を大切にしよう
 - ① 授業に積極的に参加しよう。教員の話をよく聞き、教科書や資料集、板書に書かれていないことで自分が知らないことについて、積極的にメモをとる習慣をつけよう。
 - ② 自分以外の生徒の発言もしっかり聞き、人の理解について敏感になるようにしよう。
 - ③ 予習復習をこまめにしよう。苦手な人ほど予習も大切で、授業の前に何について勉強するのか、聞く用語が初めてでなくなると親しみがわき、授業を受けやすくなる。
 - ④ 苦手な人ほど、公民は単純な暗記科目であるという誤解をしている。得意な人ほど、一つの用語を聞いたときに、イメージ豊かにその用語の周辺の知識との関係や、用語の重要性について、授業や学習事項全体の中でなぜ重要かを自分の理解や、用語を提示した人、書かれている書物の理解に照らして説明できる。知っていることが重要なのではなく、理解して使いこなせることが大切である。
- (2) 課題にしっかり取り組みましょう。

問題集や調べもの・調査・ワークシート・レポート・スピーチ・プレゼンテーション・ノート提出など様々な形の課題が課せられる。自身の問題意識や理解を人に分かるように示すことは、地理歴史科・公民科にとって大切な訓練であり、大学に進学し、世の中に出たときの武器にもなる。面倒くさがらずに、一所懸命取り組もう。
- (3) 授業と世の中の接点を意識してメディアの報道との関係を考えよう

世の中のできごとや、身の回りの不思議なことがらと授業で学ぶことがらは常に関係している。日常的にニュースや新聞に親しみ、授業で勉強したことと関連づけられるようになることが、得意になるための早道である。
- (4) ふとした疑問を大切にしよう

なぜ先生はそんな説明をするのか、教科書や資料集にはなぜそのような説明がされているのか。街で見たあの光景はなんだったのか。あなたの理解が足りないのではなく、あなたの見聞きした説明がまづいこ

と、もっと適切な説明があることはままある。感じた疑問を放置せず、しつこく食い下がって調べてみると、大切な発見が待っているかもしれない。「なぜ」にこだわって調べるのは、様々な学問が大切にすることも基本的なアプローチである。

(5) 家庭や地域で、政治や経済・国際関係について誰かが話していたら、その話を良く聞いてみよう。学校で習って疑問に思ったことを、お家の方に尋ねるのも、公民では大切な勉強になる。

(6) 政治や経済、国際関係などに関する本を読めるようになるろう。

いわゆる新書といわれる分類の本を一冊通して読めるようになるろう。特に推薦入試で同志社大学をと考えている人には必須の技能である。ネットでの情報収集には一長一短がある。特に確実性に問題があるということは押さえておこう。

年間シラバス (1年間の学習予定表)
 <週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 私たちがつくる社会 ①社会の中の私たち ・青年期と社会参画 ・宗教・思想・伝統文化と社会 ②思想から学ぶべきもの ・倫理的な見方・考え方	ア. 体験の振り返りを通し、自らを成長させるあり方・生き方について理解できる。 ア. 自主的によりよい公共的な空間を作り出す自立した主体になることが、自らのキャリア形成とよりよい社会の形成に結び付くことについて理解できる。 イ. 社会に参画する自立した主体とは、様々な集団の一員として、他者との協働により国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ア. 人間は、個人として相互に尊重される存在であるとともに、対話を通して様々な立場を理解し合える存在であること、伝統や文化、先人の知恵に触れたりすることなどを通し自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重できるようになる存在であることを理解できる。 ア. 現代の諸課題について、自らも他者も納得できる解決方法を見出すことに向け、個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、公正などの考え方を活用して、自身の人間としてのあり方生き方についての探求が、よりよく生きていく上で重要であることについて理解する。 ア. 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解できる。 ア. 諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 イ. 倫理的価値の判断において、行為の結	【評価の観点】〔各学期共通〕 ・現代社会の諸問題についての知識・理解 ・現代社会の諸問題を適切に理解するために諸資料を用いる技能 ・現代社会の諸問題についての適切な思考・判断・表現 ・公共の学習に主体的に取り組み、公共で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、現代社会の諸問題についての見方、考え方、判断や表現、学習事項に含まれる知識や理解、技能を活用して、現代的諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振

	<p>③私たちの社会の基本原則 ・社会の基本原則と憲法の考え方</p>	<p>果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見出すことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としてのあり方生き方を多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>ウ. 公共的な空間における課題解決を視野に、主体的に社会に関わろうとできる。</p> <p>ア. 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できる。</p> <p>ア. 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について憲法を踏まえて理解できる。</p> <p>イ. 公共的な空間における基本的原理について、思考実験などで概念的な枠組みを活用し、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>ウ. 公共的な空間における基本的原理について、憲法を踏まえて現代社会の諸課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとできる。</p>	<p>り取りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。</p>
<p>2 学期</p>	<p>2. 社会のしくみと諸課題 ①私たちと法 ・法の意義と司法参加</p>	<p>ア. 憲法の下、適正な手続き、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解できる。</p> <p>ア. 社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した法的主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>イ. 自立した法的主体として解決が求められる主題について、合意形成や社会参画を視野に入れ、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。</p> <p>ウ. 法の意義と役割、多様な契約、消費者</p>	

	<p>②私たちと政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民主社会と政治参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際政治の動向と平和の追求 	<p>の権利と責任、司法参加の意義などに関する課題解決に関わることができる。</p> <p>ア. 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる社会事象や課題を基に、よりよい社会は憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して、合意形成を通して築かれていくものであることについて理解できる。</p> <p>イ. 自立した政治主体として解決が求められる主題について、合意形成や社会参画を視野に入れ、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。</p> <p>ウ. 政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる課題解決を視野に、主体的に社会に関わろうとできる。</p> <p>ア. 国家主権、領土、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる事柄や課題を基に、よりよい社会は憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意形成することなどを通して築くものであることを理解できる。</p> <p>イ. 自立した政治主体として解決が求められる主題について、合意形成や社会参画を視野に入れ、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。</p> <p>ウ. 国家主権、領土、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる課題解決を視野に、主体的に社会に関わろうとできる。</p>	
3 学 期	<p>③私たちと経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市場経済のしくみ ・ 豊かな社会の実現 ・ 国際経済の動向と格差の是正 	<p>ア. 経済のグローバル化と相互依存関係の深まりに関わる課題を基に、公正かつ自由な経済活動を通して資源の効率的な配分が図られ、市場経済システムを機能させ国民福祉の向上に寄与する役割を政府が担っていること、活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解できる。</p> <p>ア. 諸資料から、自立した経済主体として</p>	

	3. 持続可能な社会の実現に向けて	<p>必要な情報を適切に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。</p> <p>イ. 自立した経済主体として解決が求められる主題について、合意形成や社会参画を視野に入れながら、解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを適切に表現できる。</p> <p>ウ. 経済のグローバル化と相互依存関係の深まりに関わる課題解決を視野に、主体的に社会に関わろうとできる。</p> <p>ア. 地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和な国際社会の形成へ参画し、共に生きる社会という観点から課題を見い出せる。</p> <p>イ. 課題解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標に、論拠を基に考えを説明、論述できる。</p> <p>ウ. 幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動に積極的に取り組み、持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体として、現代社会に見られる課題解決を視野に主体的に社会に関わろうとできる。</p>	
--	-------------------	---	--

第3学年	教科書	(未定)
政治・経済 (2単位)	副教材	(未定)

学習到達目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
--	----------	-------------	-----------------

評価規準	<p>①現実社会の諸課題の解決に向けて探究するため、手がかりとなる政治、法、経済などに関する概念や理論などについて理解できる。</p> <p>②諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につける。</p>	<p>①幸福・正義・公正などの考え方や政治・法・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明することができる。</p> <p>②身につけた判断基準を根拠に構想し、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し、表現することができる。</p>	<p>①よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を自らに引きつけ解決しようとする態度を身につける。</p> <p>②現実社会の諸問題に関し、政治・法・経済についての多面的・多角的な考察や深い理解を通し、国民主権を担い、国際社会に貢献することの大切さについての自覚を深める。</p>
------	---	---	---

学習方法

※「公共」を参照のこと。

年間シラバス (1年間の学習予定表)

<週2時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	<p>1. 現代日本における政治・経済の諸課題</p> <p>①現代日本の政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治と法の意義と機能 ・基本的人権の保障と法の支配 ・権利と義務との関係 ・議会制民主主義 ・地方自治 <p>②現代日本の経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動と市場 ・経済主体と経済循環 ・国民経済の大きさと経済成長 ・物価と景気変動 ・財政の働きと仕組み ・租税の意義 ・金融の働きと仕組み <p>③現代日本における政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済の諸課題の探究 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ・地域社会の自立と政府 ・多様な働き方・生き方を可能にする社会 ・産業構造の変化と起業 ・歳入・歳出両面での財政健全化 ・食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造 	<p>ア. 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解できる。</p> <p>ア. 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解できる。</p> <p>ア. 現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に収集し、読み取る技能を身に付ける。</p> <p>イ. 次の各事項について多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の本質 ・日本国憲法と現代政治の在り方との関連 ・政党政治や選挙と望ましい政治の在り方、主権者としての政治参加の在り方 ・経済活動と福祉の向上との関連 ・市場経済の機能と限界 ・持続可能な財政及び租税の在り方 	<p>【評価の観点】〔各学期共通〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治・経済的諸問題や政治・経済的概念についての知識・理解 ・政治・経済的諸問題を適切に理解するために諸資料を用いる技能 ・政治経済的諸問題についての適切な思考・判断・表現 ・政治・経済学習に主体的に取り組む、政治・経済で学んだことながらを主体的に活用しようとする態度 <p>【評価方法】〔各学期共通〕</p> <p>1. 定期考査の成績</p> <p>定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、政治・経済に関する諸問題についての見方、考え方、判断や表現、学習事項に含まれる知識や理解、技能を活用して、政治経済に関連する諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。</p> <p>2. 学習態度等の平常点</p>

	<p>の実現 ・防災と安全・安心な社会の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金融を通じた経済活動の活性化 イ. 次の各事項について多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化 ・地域社会の自立と政府 ・多様な働き方・生き方を可能にする社会 ・産業構造の変化と起業 ・歳入・歳出両面での財政健全化 ・食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現 ・防災と安全・安心な社会の実現 ウ. 政治及び経済の基本的な概念や理論などの理解を活用し、理論と現実の相互関連を踏まえながら、課題とする特定の社会事象について、事実を基に多面的・多角的に探究した上で、他者と協働して持続可能な社会の形成に積極的に関わろうとすることができる。 	<p>(1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。</p> <p>(2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。</p> <p>(1)(2)を総合的に評価する。</p>
2 学 期	<p>2. グローバル化する国際社会の諸課題</p> <p>①現代の国際政治</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の変遷 ・国際法の意義 ・国際連合をはじめとする国際機構の役割 ・日本の安全保障と防衛 ・国際貢献について <p>②現代の国際政治・経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貿易の現状と意義 ・為替相場の変動 ・国民経済と国際収支 ・国際協調の必要性 ・国際経済機関の役割 <p>③グローバル化する国際社会の諸課題の探究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変 	<p>ア. 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、日本の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解できる。</p> <p>ア. 貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解できる。</p> <p>ア. 現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想するのに必要な情報を適切に収集し、読み取る技能を身に付ける。</p> <p>イ. 国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>イ. 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。</p> <p>イ. 相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>イ. 国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現できる。</p> <p>ウ. グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・</p>	

容	民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、国際政治、国際法、国際経済の基本的な概念や理論などの理解を活用し、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを積極的に説明、論述することができる。
・地球環境と資源・エネルギー問題	
・国際経済格差の是正と国際協力	
・イノベーションと成長市場	
・人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組み	
・持続可能な国際社会づくり	

第3学年 〈文系〉 国際関係論 (1単位)	教科書	(未定)
	副教材	(未定)

学習到達目標

現代の国際社会に関係する諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会の形成者として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 国際社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて、探究するための手掛かりとなる国際法・国際政治・国際経済などの概念や理論について理解するとともに、諸資料から国際社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 国際法・国際政治・国際経済に関する概念や理論などを活用して、現実の国際社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し、公正に判断して、国際社会における合意形成や参画に向かう力を養う。
- (3) よりよい国際社会の実現のために、現実に国際社会に見られる諸課題に主体的に関わり、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本の平和と繁栄を図ることや、国際社会においてより積極的な役割を果たそうとする態度を養う。

評価の観点

	ア. 知識・技能	イ. 思考・判断・表現	ウ. 主体的に学ぶ力・人間性等
評価 規 準	①国際社会の諸課題の解決に向けて探究するため、手がかりとなる国際政治・国際法・国際経済などに関する概念や理論などについて理解できる。 ②諸資料から、国際社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけられる。	①国際社会における幸福・正義・公正などの考え方や国際政治・国際法・国際経済に関する概念や理論などを活用して、現実の国際社会に見られる複雑な課題を把握し、説明することができる。 ②身につけた判断基準を根拠に構想し、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し、表現することができる。	①よりよい国際社会の実現のために現実の諸課題を自らに引きつけ解決しようとする態度を身につけることができる。 ②現実の国際社会の諸問題に関し、国際政治・国際法・国際経済についての多面的・多角的な考察や深い理解を通し、日本の平和と繁栄を図ると同時に、国際社会に貢献することの大切さについての自覚を深めることができる。

学習方法

※「公共」を参照のこと。

年間シラバス (1年間の学習予定表)
 <週1時間>

学期	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	評価の観点と補講等
1 学期	1. 国際社会の諸課題 ①現代の国際政治 例えば ・国際関係史 ・国際法の意義 ・集団安全保障と国際連合 ・地域統合と国際機関 ・個別的自衛権と集団的自衛権 ・日本の国際貢献 など ②現代の国際経済 例えば ・貿易の意義と日本を取りまく現状 ・国際収支の動向 ・日本企業の海外展開 ・国民経済と多国籍企業 ・国際資本の動向 など	ア. 現代の国際社会と日本に関わる諸事象について、国際政治・国際法・国際経済等の概念や理論をふまえて、深く理解できる。 ア. 現代の国際社会と日本に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に収集し、読み取る技能を身に付ける。 イ. 現代の国際社会と日本に関わる諸事象について多面的・多角的に考察し、表現できる。 ウ. 現代の国際社会と日本に関わる諸事象について、事実を基に多面的・多角的に探究した上で、他者と協働して持続可能な社会の形成に積極的に関わろうとすることができる。	【評価の観点】〔各学期共通〕 ・政治・経済的諸問題や政治・経済的概念についての知識・理解 ・政治・経済的諸問題を適切に理解するために諸資料を用いる技能 ・政治経済的諸問題についての適切な思考・判断・表現 ・政治・経済学習に主体的に取り組み、政治・経済で学んだことがらを主体的に活用しようとする態度 【評価方法】〔各学期共通〕 1. 定期考査の成績 定期考査においては、知識・理解に偏ることなく、政治・経済に関する諸問題についての見方、考え方、判断や表現、学習事項に含まれる知識や理解、技能を活用して、政治経済に関連する諸課題の理解を試み、その解決を試みようとしているかをみるための問題も出題する。 2. 学習態度等の平常点 (1)個人・グループワークへの取り組み、発表やプレゼンテーションなど、授業時などの学習過程で、評価の観点の各項目について評価する。 (2)小テストの成績、ノート、レポート、ワークシート、コメントペーパー、振り返りアンケートなどの提出状況やその内容などを評価する。 (1)(2)を総合的に評価する。
2 学期	2. 国際社会の諸課題の探究 例えば ・グローバリゼーションに伴う諸地域の動向と日本の課題 ・東アジア国際関係の現状と日本の課題 ・国際プラットフォーム企業の事業展開と日本政府や日本企業の課題 ・国際標準としてのSDGs と日本政府や日本企業の課題 など	ア. 現代の国際社会と日本に関わる諸課題について、国際政治・国際法・国際経済等の概念や理論をふまえて、深く理解できる。 ア. 現代の国際社会と日本に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切に収集し、読み取る技能を身に付ける。 イ. 現代の国際社会と日本に関わる諸課題について多面的・多角的かつ深く考察し、表現できる。 イ. 国際社会における日本や自身の立場や役割について多面的・多角的に深く考察、構想し、表現できる。 ウ. 国際社会における日本や自身の立場や役割に関する多面的・多角的で深い理解を前提に、自身が主体的に国際社会とどのように向き合うべきか考え、他者との協働によって課題の解決を展望することができる。	(1)(2)を総合的に評価する。

※1学期・2学期とも具体的な学習テーマの設定については、担当教員や生徒の関心、他の公民科・地理歴史科の科目の既習内容に応じて、その都度決定する。